

# ゴールではなく通過点

十人十色

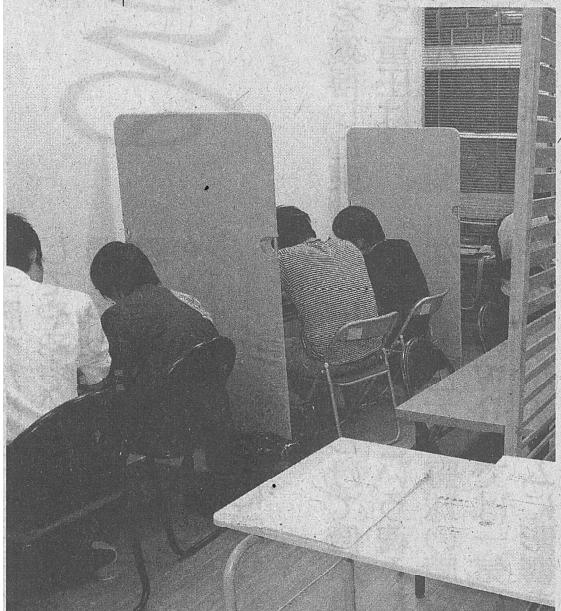
16

## 子どもたちの今

「合格しました!」とのうれしい知らせが、本人やお母さん、担当講師からたくさん届く時期になりました。そんな中、S君を担当するA先生が「S君が○○大学に合格しました! 本当に、本当に良かったです」と声を震わせて電話をくれました。

A先生は、S君が中学2年の時からマンツーマンで英語と数学を指導してきました。勉強嫌いで、集中の持続も苦手なA君は、最初は指導日にもなかなかやる気にならず、宿題を出してもらってくれる日はごくわずか、という状況でした。

## 合格



そんな彼をやる気にさせようと、A先生は自作の小テストや日割りの宿題などあれこれ工夫をしてくれましたが、テストの結果は5教科の合計で100点を切つてしまうことさえありました。自信をなくし、担当交代を希望されたこともありますた。

それでも「この子を何とか大学に行かせてあげたい」と願うお母さんやおばあさんの期待に

「高校や大学の合格はゴールではなく、通過地点」。朗報をつかんだ生徒たちには、よくこう話しています。そして「本当のゴールは、進学した先で様々な体験を重ねる中で、社会的スキルや自分を把握する自己認識を身につけ、社会の中でたくましく生きていくことだ」とも。

学校生活を通じて、自分の得意と不得意を知り、得意なことを生かしてたましく生きていぐ力。そんな力を子どもたちにつけてあげることに、今年も精いっぱい取り組みたいと考えています。

(発達支援塾アットスクール代表 鈴木正樹)

マンツーマンの指導で学ぶ子どもたち(草津市で)

応えようと、A先生はS君と真剣に向き合い続けてくれました。

「苦しい」ともありましたが、S君を担当させてもらって幸せです。生徒たちの発達や自立を応援する仕事をして、本当に良かったです」。そう語る電話の声に、胸が熱くなりました。